補助事業者番号　23-4-025
補助事業名　　平成 23 年度（復興支援）被災者に対するカウンセリング、調査活動
補助事業者名　　一般社団法人　社会応援ネットワーク

１．補助事業の概要

（１）事業の目的

被災地の子どもたちと日々接している教職員や保護者を対象に、「がっこう応援便り」復興支援号を配布。不足していた「心のケア」の知識、具体的な方法を伝達する。

（２）実施内容

「がっこう応援便り」復興支援号の取材、製作、配布

取材：岩手県釜石市を中心とした現地でのヒアリング
　　阪神・淡路大震災を経験した教諭、心のケア専門家への取材
　　澤穂希選手への取材（応援メッセージ）など

製作：「がっこう応援便り」復興支援号　（特集：子どもたちの心のケア）
　　・版形：AB 版　16 ページ　オールカラー
　　・部数：15,000 部

配布：被災を受けた公立小中学校約 450 校ほか
　　社会応援ネットワークホームページから、全頁を PDF でダウンロード可

２．予想される事業実施効果

- □ 被災地の教職員が、「心のケア」についての知識と技術を身につけ、学校内で子どもたちに自信を持って接することができる
- □ 教職員が負担なく「心のケア」についての授業をすることができる（冊子内のイラスト図説、吹き出し部分を読めば、そのまま授業ができるような構成になっているため）
- □ 保護者が家庭で、子どもたちとリラクセーションの動作法を取り組めるようになる

３．本事業により作成した成果物等

●「がっこう応援便り」復興支援号（特集：子どもの心のケア）

【参考資料】

※「がっこう応援便り」の記事掲載【2012 年 1 月 23 日「日本教育新聞」】

「心のケア」こんな手も

リラックスできる座り方

阪神大震災後の実践例

震災復興の支援活動などを行っている㈳社会応援ネットワークが昨秋、岩手・宮城・福島各県の小・中学校などに「がっこう応援便り」と名付けた小冊子を配布した。インターネット上でも読むことができる。各教科の授業で子どもの心のストレスを和らげるための具体例などを紹介している。

民間団体が小冊子作成

「心のケア」に関する特集を組み、兵庫教育大学の冨永良喜教授らの協力を得て、リラックスするための座り方などをイラスト入りで解説した。教職員が吹き出し内のセリフを読むと、そのまま指導できるように工夫した。

阪神・淡路大震災後に小学校教諭が実際に行った授業の例も盛り込んだ。3分間で100文字の作文を書かせるなどだ。また、「大人の癒し」につながる本なども紹介。18頁建てでまとめた。

冊子が学校に届くと、「まさに、欲しかった内容」「深刻にならず、すぐに教室で試せる」などと評判になり、編集部には追加発送と次号発行へのリクエストが相次いだという。

同ネットワークの代表理事で小冊子の編集長を務める高比良美穂さんは「今回の冊子編集を通して、子どもたちの笑顔のためには、周りの大人を支援することが大事だということをあらためて感じた。次はすぐにでも、お母さん応援号を作りたい」と話している。

同ネットワークは、競輪・オートレースの振興活動を行っている㈶JKAの補助を受けてこの小冊子を発行した。昨年9月に無償で配った。

同ネットワーク☎03・686１・3739

※「がっこう応援便り」の記事掲載【「サイクリングジャパン」2012 年春号】

ココにも発見、

RING!RING!プロジェクト

競輪補助事業社会貢献レポート

一般社団法人 社会応援ネットワーク

被災地の学校へ元気を届ける「がっこう応援便り」の制作をRING!RING! プロジェクトが支援

RING!RING!プロジェクトは、競輪・オートレースの補助事業です。

26

※「がっこう応援便り」の紹介【「ひまわり通信」第 1 号 2012 年 7 月 7 日発行】
（社会応援ネットワーク会報紙）

ひまわり通信

第1号
2012年7月7日発行
発行 一般社団法人社会応援ネットワーク
TEL：03-6861-3739　FAX：03-5645-2844
http://www.shakai-ouen.com

Top News 広げよう笑顔の輪！

おかげさまで1周年！

社会応援ネットワーク代表理事　高比良美穂

代表理事 高比良美穂

みなさまのご支援のおかげで、当団体も設立1周年を迎えることができました。心から感謝申し上げます。

東日本大震災後、「自分に何ができる？」と自問された方は多いと思います。私の場合、その答えは励ましのメッセージを何らかの形で送り続けることでした。気がつくと、自前でメッセージ号外を作ろうと、これまでご縁のあったタレントさんたちに「手書きメッセージを下さい！」と連絡していました。

メッセージが集まりつつあったある日、被災地で映像取材中に、中学生が近づいてきました。私が持っていた号外ゲラのアーティストの写真に目がとまったのです。メッセージを読むと彼の顔がぱあっと明るくなりました。まるで、紙上から憧れの人が出てきて、彼に直接話しかけたかのような満面の笑顔でした。ここに私たちの原風景があります。

これからも、私たちは活字や映像媒体の発行を通じ、人と人を繋げることで、笑顔の輪を広げていけたらと思っています。引き続き、ご支援の程、お願いいたします。

2011年4月、取材で訪れた被災地の学校にて

Look Back 2011年度を振り返って

東日本大震災映像素材集

被災地で記録した被災後の街の様子や教育現場の映像の一部を、教育支援活動や防災教育などに活用するための映像素材。教育関係団体を構成する23団体に配布。
（2011年7月）

理事 岩崎勝二

がっこう応援便り

財団法人JKAの東日本大震災復興支援補助事業として、「子どもの心のケア」を特集した教職員、保護者向けの様子、被災した公立小中学校約450校に配布。
（2011年9月）

理事 加藤直子

公務労協シンポジウム映像

公共サービスのあり方を問うシンポジウムで放映した映像。被災3県の市長インタビューと、公共サービスを担う人々のありのままの記録を「GReeeeN」の曲にのせて編集。
（2012年3月）

理事 山田豊

Media News メディア掲載

日本教育新聞（2012年1月23日号）

「日本教育新聞」3面に大きく掲載。「学校の教材で使いたい」という問い合わせが来たり、JKA広報の方々に非常に喜ばれたりするなど、記事掲載による反響も多数。

サイクリングジャパン（2012年春号）

代表理事の高比良が財団法人日本サイクリング協会発行の季刊情報誌「サイクリングジャパン」の取材を受ける「がっこう応援便り」の制作を通し、被災地の教育現場で感じたことや様子創作に込める思い、そして様子への反響などを詳細に語った。

日刊スポーツ（2012年2月10日号）

日刊スポーツにて、財団法人JKAの「東日本大震災復興支援補助事業」が紹介される。審査を通過し、支援を受けたのは36団体。この補助事業の1つとして、当団体の「がっこう応援便り」の取り組みが掲載された。